

事例紹介

神奈川県南足柄市立 岩原小学校

確かな学力を育む、ドリル活用！ ～PC教室をフル活用する運用の工夫～



岩原小学校は、「進んで学ぶ子」の育成を目指して、ICTを活用した基礎・基本の定着や、主体的な学びの視点からの授業改善など、先生方が力を合わせて学力向上に取り組んでいます。アクティブ・ラーニングに重点を置きながらも、定着の時間を確保する先生方の工夫をご紹介します。

授業 「わかったつもり」に自ら気づく時間

岩原小学校では、低学年から高学年まで全校的にドリルを使って単元内容の習熟を図っています。指導のねらいや工夫について、総括教諭の榎 史郎先生にお話を伺いました。

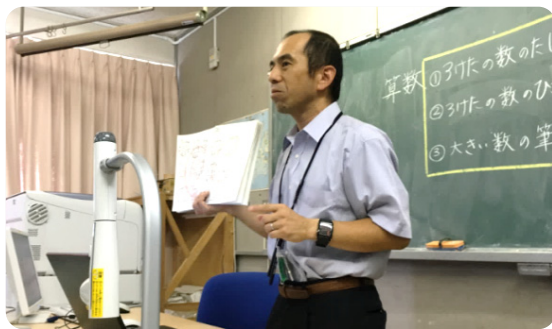
● アクティブ・ラーニング→ドリル→テスト

榎先生のクラスでは、算数や社会の単元のまとめの際に、ドリル（単元学習）で習熟を図っています。**学び合**いなどを通して単元内容を学んだ後で、**ドリルで振り返り**を行い、**その後にテスト**を行う流れです。

学習時には必ずリトライを行い、全員が基本レベルを100点で終われるようにしっかり時間を確保しています。



▲今日は「3けたの数のたし算」に挑戦



▲計算をノートに書くように勧める榎先生

● ドリルで自信をつけて、テストに臨もう

「**学習した直後にドリルを行うことで、『わかったつもり』だったことに、自ら気づく機会になります**」と榎先生。

また、ドリルを通して学習内容の問われ方を知り、「解ける！」という自信をもって、その後のテストに臨んでほしいというねらいがあります。

内田 明美 校長先生のお話

若い先生が増えてきたこともあってか、本校ではICT活用が盛んで、ほとんどのクラスで習熟の時間にeライブラリのドリルを活用しています。子どもが自分のペースでどんどん学習を進めていけるため、低学年でも物おしせず楽しそうに取り組んでいる様子をよく見かけます。

こうしたドリル学習は、学習内容の定着を図るだけでなく、問題を解く力の向上にもつながっています。学習内容が身につけていても、限られた時間の中で1人で問題と向き合う全国学力・学習状況調査のようなテストでは、思うように答えられないこともあります。そこで、日々のドリル学習を通して、1人で問題を読み、何を問われているのかを考え、答えを出す活動に慣れることで、問題への対応力がついたように感じています。



校長
内田 明美 先生

運用 時間も場所も、工夫次第！

「なかなか定着の時間が取れない、PC教室は身近ではない」という声もある中、岩原小学校の先生方は、どのようにして効果的なドリル学習の場面を作っているのでしょうか。

● 授業計画に組み込む

「もちろんクラスの実態にもよりますが、先生が見通しを立てて計画を組み、微調整しながら授業を進めていけば、アクティブ・ラーニング中心の授業でも習熟の時間は確保できます」と榎先生。

単元の指導計画を立てる際に、単元のまとめにドリルを行う時間をあらかじめ授業計画に組み込んでいるそうです。



● 設備予約でPC教室がフル稼働！

習熟の時間の確保の次に課題となるのが、PC教室の空き状況ですが、そこで活躍するのが先生用グループウェアです。南足柄市には「ミライム」が導入されており、その中の「設備予約」機能でいつでも手軽にPC教室の空き状況を調べ、予約することができます。

基本となるクラスの割り当てはあるものの、PC教室を使いたい時には、先生間で柔軟に割り当てを交換し、PC教室を有効に活用しています。

今日の施設設備予約状況				
		前日	次日	
		…予約済み(空き無し)	…予約済み(空き有り)	…予約無し
	パソコン教室	図書室	ノートパソコン	プロジェクタ
朝				
1校時	4-2 (総合)	3-1		
2校時	5-1 (国語)		2-2	2-2
3校時		3-2		
4校時	4-1 (総合)			
昼・給食				
5校時	5-2 (国語)		集会	集会
6校時				
放課後		委員会	4年部	

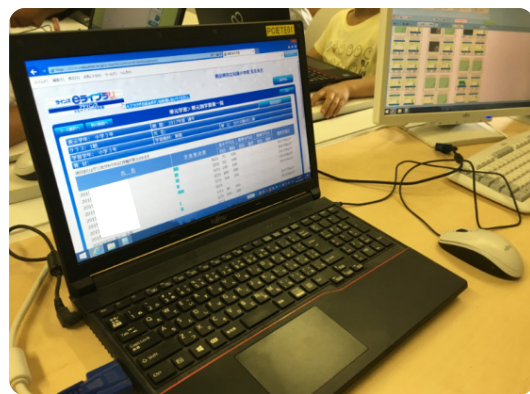
▲先生用グループウェア「ミライム」の設備予約機能（画面はサンプルです）

「ICT機器は授業進度に合わせて必要な時に使いたいものであって、決まっている枠の中で使いたい訳ではありません。**校内でのルール作りや先生間の協力体制が大切です**」と内田校長先生も運用面で先生方を支えます。

● 先生間の情報共有も

多くの先生がICTを活用する岩原小学校では、解く時間を意識して取り組ませたり、先生機で履歴を確認して机間指導に活かすなど、ドリル活用の工夫も様々です。

そこで大切なのが、先生間の情報共有です。全員で集まる時間はなかなか取れなくても、**同学年の先生間で「この習熟にはこんな教材が使えるよ」とこまめに情報共有を行う**ことで、どの先生もICTを効果的に指導に活かせる学校作りが進んでいます。



▲先生機でドリルの進捗を確認

えのき しろう 総括教諭 榎 史郎先生のお話

算数と社会を中心に、習熟の時間にドリルを活用しています。eライブラリのドリルは、ステップごと、難易度ごとに問題が作られているので、できる子はどんどん進めていける一方で、苦手な子もヒントを使いながらじっくり取り組むことができます。各自で取り組んでいる間に、個別指導の時間を確保できるのも魅力に感じています。

